

# 2013年度優勝校に直撃！ 作品制作やグローバルコンテストで得られた貴重な経験



『昔ここに戦争があった』で、2013年度 KWN 日本コンテストの最優秀作品賞とリサーチ賞をダブル受賞した福島県いわき市立勿来第一中学校。前年の2年生の時には『Lost&found ~鳴き砂を探して~』で2012年度の“よみがえる故郷の宝賞”を受賞しました。2年連続で上位入賞を果たした彼女たちは、高校生になった今も、放送局(部)に入って映像作りを続けているそうです。そんな彼女達に、KWNを通して得た映像作りへの熱い思いを語っていただきました。

2013年度 最優秀作品賞/リサーチ賞  
『昔ここに戦争があった』



太平洋戦争下で風船爆弾を製造し、放球場所となった福島県いわき市勿来。当時を知る人々への取材を通し、平和の尊さを訴える。

えを映像で伝えることがとても楽しいことだと分かったので、私はできれば将来、テレビ局の制作部で編集を担当したり、アナウンサーとして働きたいと思っています。

**岸波** 映像の活動を通していろんな人達と知り合いましたが、その繋がりこそが次なる縁を生むもの……とつくづく実感したのです。なので、人とのコミュニケーションを大切にする職業、たとえば学校の先生になりたいですね。

**安島** 私は、映像を作ることももちろん楽しいので

## 【グローバル表彰式とは】

KWNに参加する世界各国の小中学校の映像作品を審査する「グローバルコンテスト」。グローバル表彰式は一次審査を経てグランプリ候補にノミネートされた作品が参加する。KWN25周年となる2014年度は23ヵ国548校から選ばれた7校がニューヨークで表彰された。



## 表現することの楽しさを知った

最優秀に選ばれた作品の制作を通して  
どんなことを学びましたか？

**安島** この作品は戦争という重いテーマなのですが、私達にとってそれまで教科書でしか捉えていなかった戦争の爪痕が、実際に身近(勿来)にあったことを知って驚いたことが、今回取り上げたそもそものきっかけでした。

**岸波** 取材を進める上で、当時の記憶がある人がほとんどいなく、戦時下に箆口令も出されていたこともあって、インタビューできる方を探すことに苦労して…。

確かな情報を  
伝えることが  
大切です



岸波佳奈子さん

**小松** でも、地元の人達に私達の作品を観てもらい、事実を知ってもらうことができたので、このテーマにして良かったと今は感じています。

**安島** いろいろリサーチしていくなかで、私自身の物の見方や考え方が変わっていったと思います。戦争はいつ自分の身に起きてもおかしくないことですし、世界情勢や政治に深く興味を持つようになりました。

**小松** 私も同じで、世界で起こっている内戦やさまざまな紛争のニュースをよく観るようになりました。グローバル表彰式(ニューヨーク)に行った際は、戦争経験のある国々の人達が、私達の作品を観てどういった感想を持ったのかにとっても興味がありました。

**岸波** 逆に私達も、各国の最終ノミネート作品を観



インタビューは  
相手との距離感に  
気を付けました



小松美公さん

たのですが、やはり視点や価値観が国によってぜんぜん違うことがわかり、とても刺激的でしたね。

**安島** 映像には顕著に国の個性が現れているんです。たとえばアメリカならCGをフルに使っていたり、アジア圏なら環境問題をテーマにしていたり。

**小松** たとえテーマが同じだったとしても、民族や文化の違いによって、さまざまな視点の番組が作られるだろうな…と感じました。

**亀岡教諭** 彼女達のように中学生で海外に出て、世界各国の同世代の子達と触れ合う機会を持つという経験は、本当に貴重ですし、やはりその後の人生の何かを変えてしまうような大きな出来事になるようです。その証拠に、彼女達3人は高校でも放送局(部)に入り映像制作を続けているのですから。

**小松** KWNの映像制作を通して、自分の考



最優秀作品  
賞が決まった  
時は夢のよう  
でした

安島里恵さん

すが、この作品内で朗読を担当したこともあって、自分の声を通して、観る側に喜びや悲しみを伝えられることにやりがいを感じるようになりました。将来はナレーターなど、声を使った仕事に就きたいと思っています。

**亀岡教諭** 最初は右も左も分からなかった彼女達ですが、作品制作を通じて自分達の意見をしっかり持ち、仲間と協力し合って成長したのだと思います。その意味でKWNは、人格を育てる素晴らしいプログラムだと思います。

**小松** 改めて私達の実感として振り返ってみると、一つのことを映像に仕上げるまでは本当に大変ですが、決して諦めず、仲間と喜びを共感することができたのが一番の経験でした。

**安島** とにかく何事にも興味を持つ。それが番組制作の肝だと思います。興味のある事柄をきっちり調べ、自分達の思いを映像にのせることが何より大切です。これから作られる皆さん、頑張ってくださいね！

## →映像作品が仕上がるまで

ある学校の具体例を紹介します！

